

【機能・形態別関節模型】



左上より「鞍関節」「車軸関節」  
 右上より「らせん関節」「蝶番関節」  
 下左より「球関節」「臼状関節」  
 「楕円関節」

領域・教科【保健医療科・解剖学】

◇ 指導のねらい

・機能・形態別の関節の名称（球、臼状、鞍、楕円、車軸、らせん、蝶番関節など）は従来からある骨模型、図によるもの、あるいは授業者の手によって形作られる方法によって説明されることが一般的である。しかしこれら立体的なものを視覚に障害のある者（さらに生活経験の少ない者）が正しく理解することは難しいことである。そこで骨模型にある突起や窩などを取り除き、関節頭と関節窩を色分けした関節の形状をイメージしやすいシンプルな模型を作製した。

◇ 基本の使い方

・関節頭と関節窩を別々に渡す。関節頭は青、関節窩は黄色で着色されているため分かりやすい。言葉での説明を加えそれぞれの形状を理解した後にそれらを組み合わせて自ら動かすことにより関節の可動方向を理解する。

（例）

- ・鞍関節は乗馬の際用いる鞍が背中合わせに十字に重なった形をしている。（2軸性）
- ・蝶番関節はドアやロッカーなどに用いられている（いわゆる）蝶番（ちょうつがい）のように軸に筒がかぶさったような形をしている。（1軸性）

◇ 指導の評価

- ・実際の骨模型では隆起、稜や窩、溝などがリアルすぎるため、また図では立体的な様子が分かりにくかったが、この模型を使うことにより関節の名称と立体的な形状との結びつきが理解できた。
- ・関節頭と関節窩を自ら組み合わせ、動かすことにより可動方向が理解できた。